

# JOYAMA NEWS

University of Teacher Education Fukuoka  
Campus Magazine

vol.

# 53

2023 Winter

Joyama 通信  
福岡教育大学広報誌



- 特集1 > 教員採用試験合格状況
- 特集2 > うきうきTeacher
- 特集3 > カリキュラム改革について



国立大学法人  
福岡教育大学



特集

# 教員採用試験 合格状況



通信 Joyama News

福岡教育大学広報誌  
University of Teacher Education Fukuoka  
Campus Magazine

53

CONTENTS

vol.

53

## 02 特集

教員採用試験合格状況  
うきうきTeacher  
カリキュラム改革について

## 14 福教大NEWS

16 第56回 福教大祭  
福教大祭だヨ 全員集合!

18 小学校の先生になろうプロジェクト

19 教員紹介&学生から見た先生の魅力

## 20 サークル紹介

TeacherAide福岡  
バドミントン部

## 21 第30回 福教大卒OB&OG紹介

糸島市立前原中学校・教諭  
井手 貴政さん

## 22 TOPICS

アンケートに答えて  
福教大オリジナルグッズをGET!  
i-na! Vlog開設しました!  
福岡教育大学基金のご案内

## 23 キャンパスからの便り

## 教員採用試験合格状況

今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、試験当日は検温やマスク着用、アルコール消毒などの取組の中で教員採用試験が実施されました。本学の学生は、そのような状況においても、教員採用試験の合格に向けて真摯に取り組みました。

令和5年度(令和4年度実施)の教員採用試験の出願及び合格状況は、〔表1〕のとおりです。出願者数は例年よりも減少しましたが、結果は、入学時から4年次までの高い教員志望度を反映して、前年度に引き続き多くの合格者を出すことができました。特に、合格率は過去最高となり、教員採用試験に向けた日々の努力が実を結びました。

自治体別の合格者の内訳は〔表2〕のとおりです。昨年度と比較すると、福岡県・福岡市・熊本市が増加し、九州・沖縄地区全体での合格者数は昨年度を大きく上回りました。特に、福岡市の増加が際立っています。



近年、夏の猛暑、記録的豪雨や大型台風の発生など、気候変動はおろか気候危機の時代になったとさえ感じるこの頃です。この地球規模の課題解決に向けて、気候変動対策、2050年のカーボンニュートラル(CN)社会の実現を世界が目指しています。

さて、今年度の教員採用試験の合格者状況です。ここ数年、非常に高い合格実績と合格率の水準を出しています。これは入学時から4年次までの高い教員志望度を反映していると考えられます。他大学からも本学の教員養成機能、キャリア形成支援が注目されています。本年も先輩達に続き、多くの学生がコロナ禍の中でしっかり“教員になる”という夢を現役合格という姿で実現しています。残念ながら現役合格をつかめなかった学生もいます。しかしながら先を見据えて、講師登録などのステップを踏み出した学生もいます。自分の進路を、なりたい未来を描いていってほしいと願っています。率直に、学生たちの前向きなチャレンジとその成果に敬意を表します。

キャリア支援センターでは、全学的な立場からキャリア形成支援を行います。2年次から4年次の教員採用試験が終わるまで「教員採用試験のための特別講座」などを開講しています。筆記試験、面接、集団討論、模擬授業対策に至るまで、きめ細かい指導が連続発展的に行われ、学生たちのチャレンジをしっかりとサポートします。これらは特に、最前線であたたかく学生たちをサポートして下さる「就職支援アドバイザー」や特命教授の皆さま(本学では校長職経験のある先生方が活躍されています)のご尽力によるものです。この場を借りて心より感謝申し上げます。

結びに、本学は九州における教員養成の拠点大学として、生涯にわたり学び続ける有為な教育者を養成するという使命があります。また、「環境に配慮した取組」を行い、環境に関わる教育、研究、地域との連携を充実させCN社会実現に向けて進んでいます。教育は公共性の高いもので、国立大学はその公共性をより担える存在です。大きな視点から豊かな知を創造することを学んでいる学生たちは、社会にとって希望の存在です。学生一人一人が自分の夢を実現できるように、これからも学生たちの学びを全力でサポートしていきます。

はっとり かずたか  
キャリア支援センター長 服部 一啓

〔表1〕令和2年～令和4年度実施公立学校教員採用試験の校種別合格状況

(令和5年1月6日現在)

実施年度	小学校				中学校				高等学校				特別支援学校				合計				
	出願者数	1次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	出願者数	1次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	出願者数	1次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	出願者数	1次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	出願者数	1次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	合格実人数
R4	397	368	320	80.6	115	101	71	61.7	67	32	16	23.9	36	33	30	83.3	615	534	437	71.1	406
R3	392	371	312	79.6	133	112	77	57.9	68	41	15	22.1	53	51	36	67.9	646	575	440	68.1	405
R2	369	346	283	76.7	143	105	71	49.7	76	33	13	17.1	70	62	48	68.6	658	546	415	63.1	380

(注1) 出願者数:併願を含む (注2) 最終合格者数:延べ人数 (注3) 令和2～3年度の数値は、各年度の同時期(1月頃)の把握状況 (注4) 各数値は、教育学部生、大学院生、教職大学院生、特別専攻科生の状況

〔表2〕自治体別公立学校教員採用試験合格状況

(令和5年1月6日現在)

実施年度	自治体	九州・沖縄											小計(九州・沖縄)
		福岡県	北九州市	福岡市	佐賀県	長崎県	熊本県	熊本市	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	
R4		160	46	111	11	11	8	13	5	5	16	4	390
R3		153	53	74	10	18	18	6	7	12	16	5	372
R2		169	69	54	19	15	10	9	10	11	5	2	373

実施年度	自治体	他											合計(全国)
		山口県	広島県・市	岡山県・市	鳥根県	香川県	愛媛県	高知県	神戸市	静岡県	横浜市	他	
R4		9	20	4	0	2	3	1	0	0	1	7	437
R3		11	17	4	4	1	9	1	2	3	3	13	440
R2		12	17	2	1	1	2	1	0	0	2	4	415

(注1) 数値は延べ人数 (注2) 令和2～3年度の数値は、各年度の同時期(1月頃)の把握状況 (注3) 各数値は、教育学部生、大学院生、教職大学院生、特別専攻科生の状況





## 福岡市教員採用試験 小学校 合格

初等教育教員養成課程 4年

のぐち たいせい

## 野口 大生さん

佐賀県立佐賀西高等学校出身

### ①福教大での学びについて

#### 教育実習

私は小学校教員の免許に加え、中学校英語の教員免許も取得したいと考えていた関係で、教育実習に合計3回参加しました。初実習の附属小では査定授業を控えた直前の模擬授業で上手いかず自信をなくして涙を流すこともあり。授業をすることの難しさを肌で感じ、どうすれば良いのか自分なりに模索を続け、気付いたら50分の授業をやり遂げていました。附属小での学びを生かしてその後の実習でも教材研究を精一杯行いました。

私は教育実習では一度も満足のいく授業ができなかったと思っています。途中で逃げ出したいくらい何をしているのか分からなくなる授業もありました。それでも不思議と授業をすることは楽しいと毎回感じることができました。そして教員になってより多くの授業をして子どもたちと一緒に学習していきたいと強く思えた瞬間でした。この経験が後の教員採用試験へのモチベーションに繋がったのだと感じています。

教育実習は確かにつらいこともあります。しかし周りには同じ夢を追いかける仲間がたくさんいます。皆にできて自分にできないはずがありません。くじけそうなときは自分にそう言い聞かせてやりました。教員採用試験の二次試験では模擬授業を課される自治体がほとんどだと思うので、教育実習での経験を生かすことができると思います。

#### 教員採用試験対策・同じ志をもつ友人

教育実習を経て教員になりたい気持ちが強まり、自然と教員採用試験にむけても勉強を日課にすることができました。これまでの受験勉強の中で最も頑張ったと言えるくらい時間を注いで取り組みました。それが一次試験の結果に繋がったと考えています。

また、プライベートでも一番仲が良いと言っても過言ではない友人がいるのですが、私は彼と切磋琢磨しながら教育実習や教員採用試験を乗り越えてきました。二人とも福岡市の小学校教員志望で、



実習風景



弓道部の同級生



実習班のメンバー

一次試験前から支え合いながら、二次試験対策期間は特に、同じ対策グループメンバーとしてほぼ毎日面接練習や模擬授業練習を行っていました。同じ志をもつ友達がいたからこそ私は諦めず最後までやり遂げることができたのだと思います。

### ②教員として働くことへの意気込みについて

私は4月から福岡市の小学校教員になります。教員として働くことは小さい頃からの夢だったため、4月がすごく待ち遠しいです。勤務先はどんな学校で、どんな子どもたちがいて、どんな先生方がいるのかを想像するだけでワクワクしてきます。しかし、楽しさと同時に不安や焦りも多くあります。これまでに大学での講義でさまざまな知識を蓄え、教育実習やボランティアに参加してその学びを実践してきました。また、部活動やアルバイトを通して自分自身と向き合い自身の力を高めることができました。大学4年間のあらゆる場面で身につけた能力を信じ、子どもたちとまっすぐに向き合っていこうと考えています。多忙な毎日であることは明白ですが、どんなときでも「子どもたちのため」を思った最善の行動をして、自分自身の目指す教師像に近づけるように努力したいです。



弓道部の同級生





## 福岡市教員採用試験 中学校社会科 合格

中等教育教員養成課程  
社会科専攻 4年

あべ まさふみ  
**安部 将史**さん

大分県立大分上野丘高等学校出身



教育実習での思い出

### ①福教大での学びについて

4年前、私は大学卒業後に必ず社会科教員になるという決意のもと、多くの大学の中から福岡教育大学を選択し入学しました。ところが、この4年間の大半は新型コロナウイルスの影響もあり、私が思い描いていたものとはかけ離れた日常でした。大学の授業は対面が当たり前でしたがオンラインでの授業が多くなり、将来への不安が募っていく時もありました。このような困難に打ち勝ち、教員採用試験に合格できた理由も含め、福教大での学びを授業・教育実習、そして教員採用試験対策の2つのテーマに絞って振り返っていきます。

#### 授業・教育実習

教師になって生徒たちに対して授業をすると言っても、高校生までは授業を受ける側だったので、授業をする側つまり教師側の目線で授業を考えたことがありませんでした。なので、1年生の頃は3年生と4年生で行われる教育実習で授業を行うことに対して不安でした。しかし、この不安を取り除いてくれたのは、大学における日々の授業やバスケットボールサークルなどで出会った仲間たちでした。社会科専攻では社会科の専門的内容はもちろんのこと、社会科の授業づくりについても詳しく教えてくださいました。コロナ禍でのオンライン授業においても私たちが授業内容の理解に困らないよう、解説動画や補足資料を十分に提示していただき、円滑に学習することができました。サークルで出会った仲間たちとは、バスケットボールを一緒にすることはもちろん、空いた時間には、互いに実習に向けた準備や授業についての相談をしました。

このようにして日々積み重ねたものを教育実習で発揮し、実際に教育現場でご活躍されている方からの的確なアドバイスをいただくことができたので、私自身が深い学びを体現することができました。そして教育実習が終わる頃には、授業をすることが楽しくなり、教員採用試験に合格して絶対に社会科教師になるという決意を再確認することができました。

#### 教員採用試験対策

私は教員採用試験に向けて、大学受験の際よりも密度の濃い学習をしたと思っています。3年の2月頃から本格的に対策を始めました。私の受験区分が中学校社会科であったこともあり、2月から3月ころまでは1日8時間ほど、4月から7月上旬の1次試験までは1日10時間以上というノルマを決めて勉強をしました。時には1日12時間以上勉強をすることもありました。具体的には、1次試験までの長期的な計画、1週間ごとの中期的な計画、1日ごとの短期的な計画の3つの計画を立て、学習を進めました。この計画は、単にテキストをどれほど進めるのかということでしたが、同じテキストは必ず3周するということを念頭においた計画でした。このことが1次試験合格に繋がったのではないかと感じています。そして2次試験対策については、模擬授業と面接の練習をキャリア支援センターの先生方や同じく福岡市の中学校を受験する仲間と行いました。ここではキャリア支援センターの先生方から鋭いアドバイスをいただくことができ、本番までその内容を意識し、改善点を修正できたからこそ2次試験に合格できたと思います。このように教員採用試験対策は非常に大変でしたが、家族をはじめ、多くの方々の支えがあったので合格だと感じています。

### ②教員として働くことへの意気込みについて

私は4月から福岡市の中学校社会科の教員になります。しかし、まだまだ大学生活において学び足りない点があるので、まずは、残された時間で1つでも多くのことを学べるように努めていきます。そして教員になってからは、まず、これまで私に関わっていただいた方々に感謝の気持ちを忘れずに教壇に立ち、周りの教員の方の良い点を吸収し、教育に関する学びを継続させることにより、自分自身の授業力や生徒指導力などの向上を図ります。さらに、生徒の気持ちに寄り添うことや、生徒との対話を大切にすることにより、教員としてだけでなく、1人の人間として、生徒から信頼され、尊敬されるよう、教員生活を過ごしていきます。



サークルでの思い出



サークルの仲間たち



大学祭の様子





## 鹿児島県教員採用試験 特別支援学校中高国語 合格

特別支援教育教員養成課程中等教育部  
国語専攻聴覚障害児教育専攻 4年

いけ お れい み  
**池尾 玲美さん**

鹿児島県川島学園れいめい高等学校出身



授業後に特支中等の仲間と

### ①福教大での学びについて

#### 特別支援教育教員養成課程での学び

本学の講義は、教育についての知識を増やすだけではなく、個人やグループで1つの課題に取り組み、考えを発表する活動が多くありました。こうした活動のおかげで、障害児教育に対する自分の意見を再考し、より深い考えと広い視野を持てるようになりました。また、障害児を対象とした学内外のボランティア活動や療育活動もとても盛んで、多くの学生がこれらの活動に参加していました。私も、知的障害・肢体不自由児を対象とした療育キャンプや聴覚障害児の療育活動等の学内外の活動に参加しました。実際に障害児の生活や学びをサポートすることは大変なこともありましたが、このような活動のおかげで教師になるというイメージを掴むことができました。

#### 大学での様々な出会い

福岡教育大学に入学してから多くの素晴らしい出会いがあり、さまざまな経験をしてきました。特に、手話サークルと研究室での出会いや、そこでの経験が印象に残っています。

昔から手話に興味のあった私は、地域で開かれている手話サークルに参加していました。手話でろう者と話すことに初めは緊張しましたが、手話の技術が身につくにつれ、ろう者の多様な人生経験や障害への向き合い方を知ることができました。このような貴重な出会いは、手話の技術向上だけではなく、障害児教育を専攻する者としての心構えを形成してくれました。

研究室での出会いも、私の大学生活の中で欠かせないものとなっています。特に卒論作成にあたっては、一人で抱え込まず、積極的に話し合い、お互いのできることを生かすことで、速く着実に進めることができるということを体感しました。このように積極的に交流し、協力するという社会人として必要な人間力を、教授や研究室の仲間たちのおかげで身につけることができました。

これらの貴重な学びは、これからの私の人生に大きな影響を与え、私自身の成長につながっています。

#### 教員採用試験対策

私が教員採用試験に合格できた背景には、共に励まし合い、高め合った友人たちの存在があります。筆記試験対策では、お互いに進捗状況や勉強方法を交流するだけでなく、つらい時は何カ月にも及ぶ試験対策期間を乗り越えました。面接試験対策では、大学が開講している講座だけではなく、友人同士で自主的に面接試験の練習をしました。何度も面接練習をすることができたので、本番では落ち着いて面接試験を受けることができました。また、教師になりたいという志は同じでも、様々な意見のある者同士で切磋琢磨することで、自分の考えの引き出しが増え、教師になるという思いがさらに強くなったのを実感しました。こうした友人たちのおかげで実際の面接は余裕をもって臨むことができ、それが合格につながったのだと思います。福岡教育大学には教職に就きたいという学生がたくさん居るので、これから教員採用試験を受ける後輩の皆さんにも、こうした学生間での協力を大切にして試験に臨んでもらいたいと思います。

### ②教員として働くことへの意気込みについて

私は、地元に戻り、春から特別支援学校の教員として働きます。大学生活では、多くの人々との出会いがありました。また、それらの出会いが私を成長させてくれました。4年間を通して学んだ多くのことを、春からの教員生活で最大限生かしていきます。私との出会いによって子どもたちが少しでも成長し、自立できるように、これからも教育について学び続けていきます。

教員として働くことは決して容易なことではないと思います。壁に当たったときは、大学生活での出会いを思い出し、初心を忘れず、人との関わりを大切にして、それらを乗り越えていきます。また、子どもたちが壁に当たったときは、手を取り合ってともに乗り越える教員でありたいです。



手話サークルでうどん作り



研究室の仲間と



教育実習の様子





学校法人  
みやまの森こども園 採用

初等教育教員養成課程  
幼児教育選修 4年

まつ お み こ  
**松尾 実子**さん

長崎県立西陵高等学校出身



泥だんご作り

## ①福教大での学びについて

### 幼児教育選修での学び

私は幼児教育選修に所属しており、明るく個性豊かなみんなと4年間ともに学んできました。講義では座学だけでなく、泥団子づくりや体を動かす遊び、竹や木材を用いた製作など、幼児教育ならではの体験を通した学びがたくさんありました。また少人数だからこそ、1人1人が意見を出し合いながら話し合う機会が多く、コロナウイルスの感染拡大防止のために遠隔授業が増えていく中でも、みんなで学びを深めることができました。

### 実習での経験

幼児教育選修では、幼稚園で3週間、小学校で2週間の実習があるため、準備は大変でしたが、それぞれの場所で実習があることによって小学校と幼稚園の時間の流れや子どもとの関わり方などの違いを体感することができ、幼小連携の難しさを痛感しました。しかし、幼稚園と小学校、どちらの現場も見ているからこそ、幼小連携をスムーズにするためにどうしたらいいのかについてしっかり考えることができたと感じています。実習で、初めて“先生”として子どもと接し、毎日が学びと気付きの連続でした。また実習での経験を通して、自分がどんな先生になりたいか、理想の教師像を明確にすることができました。実習をきっかけに、将来の自分の姿を具体的に想像するようになり、就職活動につなげることができたと感じています。

### 就職活動について

私は5月から大学に届く求人情報を見て、そこから気になった園のホームページを調べ、園の特徴や保育内容などの情報を得ていました。1年生の時に大学の先生のご紹介で、地元のこども園を見学し、園長先生とお話をさせていただいたこともあり、その園に自ら連絡をとり、7月に自主実習をさせていただきました。そのこども園の環境の素晴らしさと先生方の雰囲気、子どもたちとの関わり方が自分の理想であったため、後日面接を受け、内定をいただきました。私が就職活動をするうえで思ったことは、たくさんの園を実際に見ることが大事だということです。たくさんの園があるなかで、その園が自分の理想であるかどうかを判断するには、実際にその園の子どもたちと関わり、その園の雰囲気と環境を自分で体感する必要があると思いました。

## ②幼稚園教諭を目指す後輩に一言

私は4月から自分の幼い頃からの夢であった幼稚園教諭になります。もちろん不安は大きいですが、この大学で学んだこと、経験したこと、そしてなによりたくさんの人とのかけがえのない出会いが私に自信を与えてくれます。不安はありつつも先生として子どもたちと関わることがとても楽しみです。幼児教育選修では、「まずは先生が楽しむ」ことを教えてくれます。先生が全力で遊んだり、笑ったりすることは子どもたちにも伝わり、楽しい保育につながります。座学だけでは得ることができない大切なことを大学では学んでほしいです。みなさんが自分の理想とする幼稚園教諭になれるよう、応援しています。頑張ってください。



学祭のポート部集合写真



幼児教育選修の卒業研究準備





福岡県教員採用試験  
高等学校数学 他 合格  
大学院教育学研究科教職実践専攻  
教育実践力開発コース 2年  
はやし みずき  
**林 瑞樹さん**  
福岡県立小郡高等学校出身  
福岡大学理学部応用数学科出身

## ①福教大での学びについて

### 教職大学院進学を決めたきっかけ

私は福岡大学の理学部応用数学科を卒業後に福岡教育大学教職大学院に進学しました。学部時代は、専門的な数学の勉強と教職課程での教育についての勉強を同時に行っていました。そのため、教育についての勉強が疎かになり、卒業を控えてこのまま教師になって大丈夫なのかという不安を抱き始めました。また、新型コロナウイルス感染症が蔓延し、教育実習が思うようにできませんでした。これらのことから教育について本格的に学びたいという思いが強くなり教職大学院への進学を決めました。

### 教職大学院で学ぶことの良さ

一番は長期派遣で大学院に研修に来られている現職の先生たちと交流できる機会があることだと思います。授業内ではグループワークなどを通して現場の生の声を聞くことができ、実際に現場で起きていることと教職大学院での学びとを結びつけることができます。このことから、自らの卒業後の教壇に立つ姿を想像することができました。また、教職大学院に入学することで、年齢や学校種、教科を問わずさまざまなつながりができます。授業実践のことや悩みなどを相談することができ、大変助けられました。卒業後もこのつながりを大切にしていきたいと思います。現場に出る前に尊敬できる現職の先生たちや同じ志をもつ仲間たちに出会えることは教職大学院の強みだと思います。

また、教職大学院ではTA実践インターンシップやコラボレーション実習など実習の内容が充実しており、自分が希望している学校種以外での実習を含め、現場に出る前にさまざまな経験を得ることができます。授業や課題演習などで理論的に学び、それを実際にTA実践インターンシップで実践するという「理論と実践の往還」のサイクルを回すことができます。そのサイクルを回すことで、自分の課題を見つけることができ、改善のために何をすればいいのかを明確にすることができます。このような貴重な学びを現場に出る前に経験できたことは私の中で財産として残り続けると思います。



有元ゼミ集合写真

## 教員採用試験対策

教職大学院に進学すれば、修了することを条件に福岡県の教員採用試験では1次試験の筆記試験を免除していただくことができます。そのため、2次試験の模擬授業、個人面接の対策を集中して行いました。教職大学院では、独自に採用試験対策を行っており、大学院の先生方がお忙しい中時間を見つけ、院生の模擬授業と面接の指導を行ってくださいます。そのなかで、数多く練習を行い、自分の課題を見つけ、修正していくことを意識しました。過去5年分の模擬授業で出題された内容についてすべて取り組み、自分なりに模擬授業の構想方法を確立しました。また、自分には知識が足りないと感じたので、「令和4年度福岡県教育施策実施計画」や「人権教育の指導方法等の在り方について」などの資料を寝前の空いている時間に読み込みました。そのため、面接ではどんなことを聞かれても答えられる自信をつけることができました。

勉強や遊び、サークルなどのさまざまなこととの両立は難しいとは思いますが、空いている時間を見つけ、量をこなすことを意識してみてください。回数をこなすことで合格への糸口が少しずつ見えてくるようになると思います。

## ②教員として働くことへの意気込みについて

私は、春から福岡県の高等学校数学科の教員になります。本当にこのまま教壇に立って、生徒の成長に寄り添うことができるのかという不安はあります。しかし、教職大学院で得ることができた経験を活かして、自信を持って教壇に立ちたいと思います。そして、「先生の数学の授業は分かりやすい」と生徒に言ってもらえるように教材研究を行い、学び続ける教師であり続けたいです。



大学院の友人とのアスレチック体験



模擬授業の対策



ゼミの風景



# 教員採用試験合格に 惜しくもあと一歩 届かなかった人へ

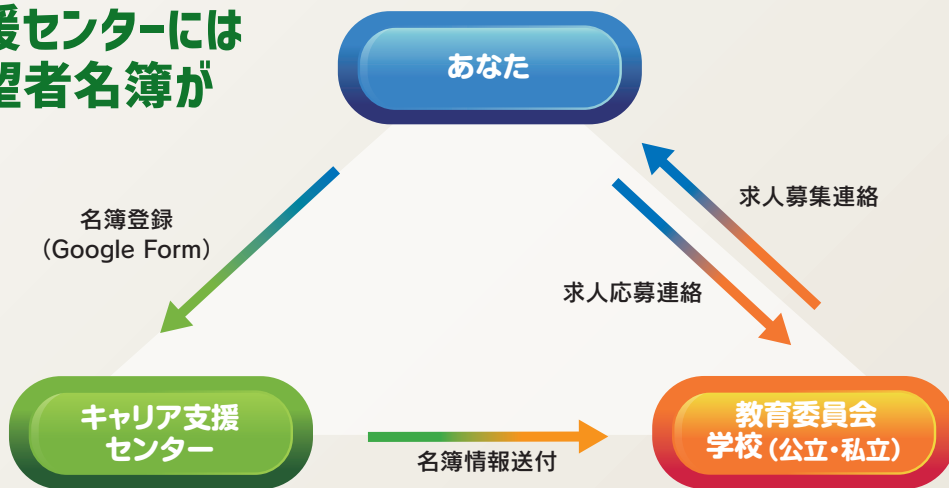


大竹就職支援アドバイザー

教員採用試験合格を目指してがんばってきたが、惜しくもあと一歩届かなかった人もいます。大切なことは、まずここで教師を目指す気持ちや信念をもう一度確かめることです。そして、自分の課題はどこか、何を伸ばせばいいのかという自己分析を改めて行うことです。自分の目標をしっかりと定め、具体的な方策を考えて実行していくことで、今後の生活をよりよい充実したものにしていきたいと思います。具体的な進路選択の例をご紹介します。

選択肢の例	特徴
①公立学校の講師に就職	教育現場で経験を積み、教師としての実践力(学級経営、指導力など)を身に付ける機会に恵まれています。収入が得られるのもポイントです。働きながら教員採用試験に向けた受験勉強を行うことになるので、筆記試験のための勉強時間作りに努力や工夫が必要です。
②私立学校の教員・講師に就職	現場経験を積んで、教師としての実践力を身に付けられる点や、収入が得られる点は公立学校と同じです。公立学校のような転勤がない学校が多いため、長年にわたって勤務する場合は自分の経験を生かしやすいです。学校にもよりますが、少なくとも一年間は講師(雇用期間の定めのある職)として採用されることが多いです。
③教職大学院へ進学	教職についての理論と実践を深く学ぶことができます。公立学校教員採用試験の受験時に特例措置(試験科目の一部免除、合格後に大学院修了まで採用を待ってもらえるなど)を設けている自治体が増えてきています。進学にあたっては授業料等が必要になります。(奨学金を活用することも可能です。)

## キャリア支援センターには 講師等希望者名簿が あります！



※連絡先変更や情報提供不要になったらキャリア支援センターへ連絡を！  
TEL:0940-35-1249 FAX:0940-35-1759 E-mail:csc-jimu@fukuoka-edu.ac.jp

キャリア支援センターには、公立私立問わず学校等(教育委員会を含む。)から常勤講師、非常勤講師等の求人情報が多数届きます。そこで、キャリア支援センターでは、講師等希望者名簿を独自に作成し、学校等に名簿登録者の情報を提供することで講師等就職のサポートを行っています。もちろん、希望する教育委員会への講師登録が最優先ですが、上記の方法もありますので、卒業後の進路選択に役立ててください。



# うまうまTeacher!

## ～小・中学生のための教師体験～

### イベント概要と目的

近年、社会全体に働き方改革が求められる中で、教員の多忙・教員不足が社会問題化し、教員を志望する者の減少が課題となっており、福岡県内の各自治体においても教員の勤務環境の改善のために様々な取り組みが行われています。そのなかで本学は、子供たちの学びと協働的な学びをつくり出すことのできる創造的な仕事である教師の魅力を発信することで、教師を目指す子どもたちを増やすことに寄与したいと考えています。

教師の魅力を発信する具体的な取り組みとして、令和4年10月30日(日)に、「うまうまTeacher!～小・中学生のための教師体験～」を開催しました。本事業は、「教育大へ行ってみよう!」(※1)の後継事業として行っていることから、義務教育段階の児童・生徒を対象として、教師

という職業に興味や関心を抱くような実践的なプログラムを企画し、約40名の小・中学生の参加がありました。

今年度は、『赤ペンで花丸!テストをつくって採点してみよう!』、『科学実験を体験して、その内容とコツを他の人へ教えよう』、『小学校の英語教材をつくって、やさしい英語で英語活動をやってみよう!』、『変わり絵カードをつくって“図工のプロ”をめざそう』、『“よりよい生活”ってなんだろう?』という5つのプログラムを行いました。

各プログラムは、学校の先生の視点に立って教える体験のほか、学校の先生が授業で行っている工夫を知ることや学校の先生が授業以外にどのようなことを行っているか等、学校の先生の仕事について、様々な視点から学ぶことができる体験となりました。

(※1)「教育大へ行ってみよう!」は、小・中学校の休業日に大学を開放し、子どもたちの心を揺さぶるような様々な科学実験・体験、ものづくり体験、生演奏や指揮体験など、教育大学ならではの楽しい体験活動を、コロナ禍前まで実施していました。

**「教える」をテーマに**  
学校の先生の仕事楽しく体験してみませんか。  
将来、先生になりたいなと思っているあなたはもちろん、そうでないあなたも大歓迎。  
さあ、みんなで「教育大へ行ってみよう!」

**講座一覧**

- 半日コース (①午前回 10:00～12:00 ②午後回 13:00～15:00 ※①と②は同じ内容です。どちらかに申し込みください)
- 1日コース 10:00～15:00 ※お申し込みを待たせてください

**科学実験を体験してその内容とコツを他の人へ教えよう**  
講師 伊藤浩治  
対象 小学校5年生～中学校2年生 各12名  
時期 半日コース  
3つのグループに分かれて3つの科学実験をします。このうちの1つは、大学生から教えてもらって、他のグループへ実験のコツを伝えます。残りの2つは、他のグループからコツを教えてもらって実験します。

**赤ペンで花丸! テストをつくって採点してみよう!**  
講師 北村優一  
対象 小学校5年生～中学校2年生 各24名  
時期 半日コース  
赤ペンをもって先生のように丸付けをしてみよう! テストっていやだなあ、先生はなぜテストをするんだろう、どうやって作っているんだろう、そんな疑問にも少しだけお答えします。テストの秘密がわかるかも。

**小学校の英語教材をつくってやさしい英語で英語活動をやってみよう!**  
講師 北村美穂  
対象 小学校5年生～中学校2年生 各12名  
時期 半日コース  
この講座では、英語活動で使う教材づくりややさしい英語を使った指導体験ができます。大学生から教材の作り方やゲーム活動の進め方がある人ももらえます。英語に興味がある人ももちろん、英語を苦手と感じている人も安心して体験できます。

**変わり絵カードをつくって“図工のプロ”をめざそう**  
講師 松久公嗣  
対象 小学校5年生～6年生 12名程度  
時期 1日コース  
手品のように絵が変わる「変わり絵カード」をつくらう。学校の先生が図工の授業をどのように工夫しているか、そのコツに気づき、伝え合い、図工室や授業をつくる体験をすることで、「図工のプロ」を目指そう!

**「よりよい生活」ってなんだろう?**  
講師 奥谷めぐみ  
対象 中学校1年生～2年生 12名程度  
時期 1日コース  
家庭科の目標には「よりよい生活」という言葉があります。私にとって、地域や国にとって、地球にとって「よりよい生活」を考えるための「シミュレーション教材(シナリオ)」を作ってみよう!

**本講座は事前申込制です**  
福岡教育大学公式ホームページよりお申し込みください。

**アクセスマップ**  
教育大前下車徒歩10分。当日の会場等へのアクセス詳細については、HP(上記二次元コード)にてお知らせします。

2022.10.30(日)  
開催時間: 10:00～15:00  
受付時間: 午前の部 9:30  
午後の部 12:30  
場所: 福岡教育大学  
9月5日(月)に申し込み開始。先着順で定員に達し次第募集を締め切ります。

〒811-4192 福岡県宗像市赤間文政町1-1 福岡教育大学 連携推進課  
電話 0940-35-1238 メール fukui@fukuoka-u.ac.jp HP https://www.fukuoka-u.ac.jp





参加者(先生役)が英語を使って、他の参加者、担当教員及び学生スタッフ(児童役)に説明している様子。



参加者が先生としてどのように伝えるか考えながら実験を進めている様子と見守る学生スタッフ。

## 参加者の声を含めてイベントの総括

参加者から、「先生になった気分になれてとても楽しかった。」「また行きたいなと思いました。これからもみんなに覚えたことは伝えようと思いました。」「どんどん先生の仕事に興味がわいてきたので良かったです。」といった意見が寄せられました。

また、保護者からも、「子どもの有意義な体験と、今後の進路について考えるキャリア教育の、両方の役に立つのでまた機会があれば参加したいです。」「大学の雰囲気と学生と一緒に子供達が学べたので将来は福岡教育大など教育を学べる進路の選択肢の一つになればいいと思う。」「教壇に立って、みんなに教えるという事を学んだみたいで、とても大変なお仕事なんだと少し実感したみたいです。また、来年もこの企画に、ぜひ参加させてあげたいと思います。」といった意見が寄せられました。

本事業が、教師の魅力の発信や教科等への興味・関心を持つことのきっかけのひとつになったと考えています。



学生スタッフの協力を得ながら、参加者がテストづくりに取り組んでいる様子。



生田淳一教授がプログラムの説明をしている様子。

## うきうきTeacher!初年度実施を終えて

初めての取り組み。参加する子どもたち以上に、不安と期待でいっぱいだったのは実施する私たちだったのではないのでしょうか。教師体験の中でどのように子どもたちに教師の魅力伝えるのか、感じてもらうのか。コロナ禍で活動が制限される中、それぞれが専門を生かし工夫を凝らして新しいプログラムを開発していきました。

心配をよそに、当日は元気に子どもたちが参加してくれました。ドキドキしながらプログラムをスタートさせましたが、すぐに子どもたちは笑顔で楽しく積極的に参加してくれました。多くの子どもたちに「楽しかった」、「また参加したい」という感想をいただき本当にうれしかったです。ご参加いただいた保護者の皆様からは、スタッフとして子どもたちの活動をサポートした本学学生の姿に、たくさんのお褒めの言葉をいただきました。初対面の子どもたちにも、すぐに打ち解けて楽しく関わることで本学の学生のすばらしさを改めて感じることができました。今回のうきうきTeacher!の取り組みは、将来教員を目指す本学学生にとっても、子どもたちと触れ合える貴重な時間となりました。「教師の魅力」だけでなく、「福岡教育大学の魅力」も伝えることができたのではないかと考えています。

これまでの「教育大へ行ってみよう」にかわる取り組みとして、「教師の魅力とともに、福岡教育大学の魅力を発信することのできるみんなの学びの場へ」今後さらに進化させていきたいと考えています。

社会連携推進室長 **生田 淳一**

いくた じゅんいち





飯田慎司学長に現役学生がインタビュー!

# 新カリキュラムで何が変わる? Society5.0時代に目指す 教員養成

この春、いよいよ新カリキュラムが始動します。福岡教育大学では、小学校の教科担任制導入に即して初等教育教員養成課程に5つの学位プログラムを設置。また、主専攻・副専攻制度を導入し、小学校・中学校・特別支援学校の各教員のスペシャリストを目指す道、副免として複数の教員免許の取得を目指す道など、個人が目指す教員像に合わせて学びを選択しやすくなります。今回は新カリキュラムの内容と、その中で福教大が目指していく教員養成について飯田慎司学長に現役福教大生がインタビューしました!



## GIGAスクール構想、教科担任制 教育現場で求められる能力とは

**伊東さん** 今回カリキュラム改革を行ったのは、どうい理由からだったのでしょうか?

**飯田学長** 2つの大きな理由があります。1つは「学生自身が求める学びをより得やすいシステム」にするため、もう1つは「令和という新しい時代の学校教育に適應できる教員」の養成を目指すためです。国がSociety5.0を提唱し、学校教育においても教育の質の向上が求められ、新しい取り組みが様々に始まっています。伊東さんもそういった変化を感じたことはありませんか?

**伊東さん** ボランティア活動で小学校の学習サポートをしているのですが、そこでiPadを使った学習をお手伝いしたことがあります。

**飯田学長** そうですね。GIGAスクール構想に対応したICTの活用能力、数理・データサイエンスやSTEAM教育などが強調され始めていますし、22年度から始まった小学校の教科担任制も大きな変化のひとつです。学部教育もこうした変化に対応するべく、新しい科目の開設や既存科目の改善、学修システムの見直しを適宜行っていきます。今回のカリキュラム改革もそのひとつというわけです。



### いとう 伊東あきらさん

初等教育教員養成課程1年

両親ともに福教大出身の教員で「幼い頃から福教大で学ぶことに憧れていた」と伊東さん。「周りがみんな先生を目指していて普段の会話でも教育や子どもに関するニュースが話題になる。一緒に頑張れる環境がすごく楽しいです!」

## 専門性の追求も副免取得も カリキュラム改革のポイント

**伊東さん** カリキュラム改革には4つのポイントが挙げられていますが、それぞれについて詳しく知りたいです。

**飯田学長** 1つ目のポイントは【新たな時代に対応した教員養成の実現】です。“新たな時代”の分かりやすい例が、小学校の教科担任制の導入です。昨年から高学年の英語・算数・理科・体育で始まりましたが、いずれ他の教科にも広げられるでしょう。そうすると、小学校教員にも教科の専門性が求められますよね。その専門性を育むための具体的な変革が2つ目のポイント【学位プログラム制の導入】です。

**伊東さん** 2023年度からは福教大の入試もプログラムごとに行われると聞きました。

**飯田学長** そうです。初等教育教員養成課程、つまり小学校の教員を目指す皆さんは入試の段階から5つのプログラムに分かれます。まずは、幼児教育を主専攻として副免で小学校の教員免許も取得する「①幼児教育プログラム」、そして小学校教育のスペシャリストを目指す「②小学校教育専攻プログラム」。この①②は現在、本学で実施しているプログラムを継続するかたちです。これらに加えて、教科の専門性を高めるため新設したのが「③人文・社会教育プログラム」「④理数教育プログラム」「⑤芸術・実技教育プログラム」です。これら小学校教育を主専攻としながら中学・高校の教員免許を副免で取得していくもので、③は





国語・社会・英語、④は数学・理科、⑤は音楽・美術・保健体育・家庭・技術の免許取得を目指していきます。

伊東さんは初等教育教員養成課程ですよね。小学校の教員免許に加えて副免の取得も何か目指していますか？

**伊東さん** 国語の副免取得を目指しています。大学入試の頃から小学校に教科担任制が導入されるのは知っていたので、将来自分が教える子どもたちのためにも専門教科を持っておきたいと思って。

**飯田学長** 前向きな選択ですね。伊東さんのように現行の初等教育教員養成課程でも副免取得は目指せるんですが、小学校の教員免許に加えて、中・高の一種免許を目指すとなると、実際、単位取得に相当多くの学修時間が必要ですね。そこで副免を二種免許に留められるよう選択肢を広げたのが、3つ目のポイント【目指す教員像に応じて学びをデザイン】です。主専攻・副専攻制度を導入して、副専攻では一種免許・二種免許のどちらを目指すかを学生自身で選択できるようになります。一種免許は30単位程度が必要ですが、二種免許は14単位程度ですから余裕が生まれるわけです。この時間を他の履修に当てて学級経営や生徒指導など小学校教育を深掘りしてもいいし、別の二種免許の取得を目指してもいい。自分が目指す教員像に近づくための学びを、学生本位でより選択しやすくなります。

その結果が、4つ目のポイント【複数の教員免許取得が可能】につながります。副免取得に関しては中等教育教員養成課程についても当てはまり、他の教科や小学校教諭を二種免許で目指すこともできます。

## 全国トップクラスの採用試験合格数 小学校教育専攻プログラムへのこだわり

**飯田学長** カリキュラム改革のポイントについて説明しましたが、5つの学位プログラムの中に現行の指針を受け継ぐ「小学校教育専攻プログラム」を残した理由についてもお話しさせていただきます。

中学・高校の副免取得を目指さず、4年間かけて小学校教員としての資質や能力を高めていく。これが現在の初等教育教員養成課程のベースの指針ですが、これにより結果として本学が教員採用試験で素晴らしい成果を挙げ続けているのも事実です。今年度の小学校教員採用試験の最終合格者数は282名に上り、例年に並んで全国トップクラスを維持しています。本学を志望する皆さんの中にはこうした合格実績に心強さを感じている方も多はずなので、学びの良さ伝統を「小学校教育専攻プログラム」として継続していく考えです。

また、そうすることで現行の科目も継続されますから、他のプログラムの履修者も自由選択の中で小学校教員としての能力を深掘りする教職専門科目を受講できる仕組みになっています。

## 新カリキュラムが育む 豊かな教養・専門性・実践力

**伊東さん** 新しいカリキュラムを含めて、福教大での学びはどのような力を身につけることができるのでしょうか？

**飯田学長** 本学が目指す人材像は「生涯にわたって学び続ける有為な教育者」です。それを実現する学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）として「幅広い視野と豊かな教養」「高い専門性」「確かな実践力」を掲げていますが、これらと実際の各授業科目を結びつけて見える化しているのが本学の特長ではないでしょうか。どの授業科目が3つの内のどの力を育むのかをカリキュラムマップとして一覧表にし、さらに授業科目間の関係性をチャート型等のカリキュラムツリーで示していきます。選択するプログラムや目指す免許は個人で違うので十人十色の多様な学修、授業科目の履修を行います。その全てが先の3つの能力の修得に集約されていくわけです。

## 教員就職者数が全国1位 魅力ある教員を輩出し続ける

**飯田学長** 伊東さんは今1年生ですよね。本学に入学した1年生のうち何割くらいが教員を目指していると思いますか？

**伊東さん** 周りの友人はみんな先生を目指していますし、学年全体でも…9割くらいはいるんじゃないでしょうか。

**飯田学長** 近いです、実は95%以上です。その意欲に伴うように、教員採用試験でも成果を上げています。今年度の比較データはまだ出ていませんが、昨年度の学部生の正規採用の教員就職者数は全国1位。非正規採用も含めて例年、非常に高い数字を維持し続けています。

こうした合格者数の多さに加えて、本学が重視しているのが教員としての“質”です。繰り返しになりますが、本学は「生涯にわたって学び続ける教育者」の養成を目指しています。採用試験に向けた学習はもちろん大切ですが、合格がゴールではありません。教育現場に入った後も自ら学び、思考し、成長し続けられる魅力的な教員を今後も育成していきたいと考えています。一緒に頑張ってください。

**伊東さん** はい、頑張ります！

# 福岡教育大学は令和5年度から変わります。

自分が目指す教師像に向かって、主体的に学んでいくカリキュラム！



### 新たな時代に対応した教員養成の実現

Society5.0時代の到来やGIGAスクール構想、小学校高学年における教科担任制の導入など変化の著しい学校現場に求められる教員養成の実現を目指します。

### 目指す教員像に応じて学びをデザイン

主専攻・副専攻制度を導入し、目指す教員像に応じた4年間の学びを皆さん自身でデザインできるようにします。

### 学位プログラム制の導入

4年間の学修目標及び皆さんが身につけるべき資質・能力を明確かつ具体的にした複数の教員養成プログラムを設け、多様で体系的な学びを可能とします。

### 複数の教員免許取得が可能

多様な学びを実現することで、その結果として複数の教員免許状が取得可能となるカリキュラムを編成します。



1

## SDGsクラブの学生が宗像市長を表敬訪問

令和4年12月21日(水)に、本学のSDGsクラブの学生が顧問の石丸教授とともに、宗像市の伊豆美沙子市長を表敬訪問しました。

クラブに参加している学生が、今年度実施した取り組みについて報告した後、伊豆市長より激励をいただきました。

福岡教育大学SDGsクラブは、今後も、カーボンニュートラルや多文化共生社会の実現をめざし、誰一人取り残さない持続可能な社会づくりに貢献してまいります。



伊豆市長(写真中央)とSDGsクラブの学生たち

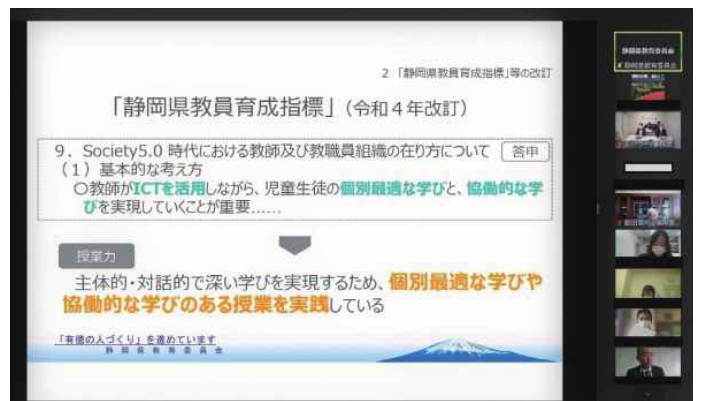
2

## 令和4年度九州教員研修支援ネットワーク第1回協議会を開催

令和4年11月16日(水)に、令和4年度九州教員研修支援ネットワーク第1回協議会をオンライン会議により開催しました。

今回の協議会では、ネットワーク参画機関の約50名が参加し、「『令和の日本型学校教育』を担う新たな教師の学びの姿について」というテーマのもと、講演や実践報告、ワークショップ等を行いました。

ネットワークでは、今後も協議会の開催などを通じて、教員研修に係る情報や課題等を共有しながら、教員研修の効果的・効率的な実施に資するための取組に努めていきたいと考えています。



実践報告の様子

3

## 釜山教育大学校との学生交流事業を実施

令和4年11月14日(月)~17日(木)に釜山教育大学校より教員1名と学生5名が本学を訪問し、2年10ヶ月ぶりに学生交流事業を実施しました。

飯田学長への表敬訪問を行った後、「板書指導」の授業や現在本学にて学んでいる留学生対象の授業にも参加しました。

昼食後は、日本の伝統的な楽器に関する講義に参加し、音楽専攻に所属する学生と一緒に琴の演奏を体験し、交流を深めました。

また、現在ハングルを学んでいる学生との座談会にも参加し積極的な交流を行いました。

ポストコロナを見据え、海外の大学との学生交流事業について、積極的に取り組んでいきます。



交流事業に参加した学生たち

## 『声楽専攻生によるホールコンサート2022』を開催

令和4年11月12日(土)に、福岡教育大学 中等教育教員養成課程音楽専攻『声楽専攻生によるホールコンサート2022』を宗像ユリックス・ハーモニーホールに於いて開催しました。

声楽専攻生は地域の皆様にクラシック音楽を心から楽しんで頂けるように、日々練習に励んでおります。

当日のコンサートの様子をYouTube配信にてお届けしたいと思います。

オペラ・アリア、イタリア歌曲、日本歌曲などクラシックの名曲の数々をお楽しみください。



当日のコンサートの様子はコチラから ▶



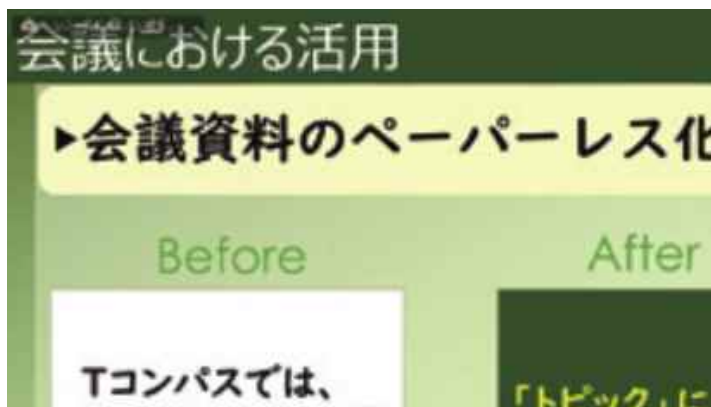
声楽専攻生によるホールコンサート

## 第16回宗像地区教育関係者合同研修会を開催

令和4年8月18日(木)に、「第16回宗像地区教育関係者合同研修会」をオンラインで開催しました。本研修会は、福岡教育大学と宗像市・福津市教育委員会及び管下小・中学校との互いの機能を強化、補完することを目的としており、宗像市・福津市教育委員会及び学校関係者、本学関係者から約170名の参加がありました。

研修会では、宗像市・福津市教育委員会と福岡教育大学との連携による研究プロジェクトの事業成果報告や、ICTを活用した教育実践についての報告、「プログラミング教育の本質」と題したビジョナリートークが行われました。

今後も福岡教育大学・宗像市・福津市で連携して教育・研究を推進していきます。



実践報告会の様子

## 令和4年度福岡教育大学未来奨学金授与式を実施

令和4年7月28日(木)に令和4年度福岡教育大学未来奨学金授与式を実施しました。

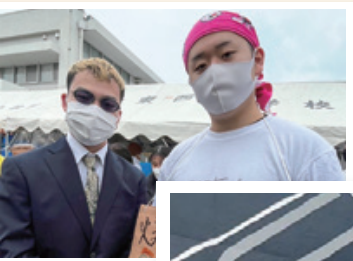
今年度は、20名の学生が「学業成績優秀者奨学金」を授与され、1名の学生が「国際交流協定校派遣支援奨学金」を授与されました。飯田学長、薄後援会会長、太田同窓会会長からお祝いや激励の言葉が贈られました。

これを受け、学業成績優秀者奨学生代表と国際交流協定校派遣支援奨学生から、感謝の言葉とともに「いただいた奨学金は、教員になるという夢の実現のために活用したいと思います。」と決意が述べられました。



授与された学生との記念撮影





福教大ミス・ミスターコンでは、ミス部門、ミスター部門、女装男装部門に分かれて熱き戦いが繰り広げられました!



野外ステージは青春の音楽で溢れ、学祭のメイン会場として盛り上がりを見せていました!



## 第56回福教大祭

# 福教大祭だよ

# 全員集合!

令和4年11月19・20日に、第56回福教大祭が開催され、学内関係者限定ではありますが、3年ぶりの対面開催となりました。福教大祭の盛り上がった様子をi-na!がお伝えします!



古本バザールでは、室内で紅葉を楽しみながら、読書や古本の購入ができました!



出店も充実!!美味しい食べ物でお腹も心も満たされました!







## 学祭実行委員長へインタビュー

### — どのくらいの人に参加されたのですか？

2770人も参加してもらいました。3年ぶりで4年生の先輩方しか学祭を知らなかったの、みんなで模索しました。運営も企画もスムーズに進んで、無事に終わることができたので良かったです。

### — コロナ禍だからこそ苦労したこともあったのではないですか？

はい。コロナ禍での新しい取り組みとして、CPチェックポイントを作りました。今年は学生だけの参加だったので、入場者数や、密集するところでの人数管理に活用しました。新しい取り組みであったので、学生にシステムを伝えるのに、とても苦労しました。私たち学祭スタッフでも戸惑いがあったので…。他にも、区画管理で混雑を予防したり、食べ歩きを禁止して、飲食スペースを設けるなど、コロナ禍ならではの取り組みをしました。

### — 苦労もあった中で、頑張れた理由はなんですか？

やっぱりスタッフ同士の励ましがあったからですね。「みんなが頑張ってるから私も頑張ろう」って。スタッフみんな仲が良いので、多くの場面で助け合いや励ましあったりしていました。

### — そんな仲の良い学祭スタッフについて聞かせてください。

学祭スタッフは1年生29人、2年生4人の、計33人です。

仕事内容は、当日の運営や、会場設備、イベントの企画や、協賛取り、テントの借用や、全学実の運営、団体さんとの打ち合わせなどです。

### — なぜ、学祭スタッフになったのですか？

みんなで1つのことをやり遂げる経験がしたかったんです。あとは、大学の文化祭への期待とそれに関わりたいという気持ちがありました。

### — 学祭スタッフをやってみて、感じた魅力を教えてください。

学祭を自分の手で1から作れるところですかね。素敵な仲間や先輩と出会えますし、自分自身も成長できます。あとは、パソコン業務に慣れることができたのも魅力だなと感じます。なかなか経験できないようなことができるので、多くのことを学べました。

### — 最後に来年の抱負と1年生へのメッセージをお願いします。

今年の福教大学祭にご協力頂きありがとうございました。無事に開催できて、成功を収めることができました。

来年は、一般の方も招いての開催を目指して私たち学祭スタッフも頑張っていきます。

来年の福教大祭でお待ちしています。

新入生のみなさん、ぜひ学祭スタッフになって下さい！

外部の人や他のクラスの人との関わりが持てるので力強い仲間ができますし、成長できます！一緒に活動できることをスタッフ一同楽しみにしています。



学祭実行委員長  
初等教育教員養成課程1年 **見陣 詩乃**



# 同じ夢の実現を目指す仲間を増やそう！ 小学校の先生になろうプロジェクト

## プロジェクト概要

小学校の教員を目指す初等教育教員養成課程では、一学年に350名以上の学生が学んでいます。しかし、クラスが異なると、サークル等を除けばなかなか知り合いになる機会がないのではないのでしょうか。「小学校の先生になる」という同じ夢を持って同じ大学で学んでいるのに、4年間お互いに知り合う機会がないまま過ごすのはもったいないと思います。そこで、クラスの枠を超えて知り合う場をつくることを目的として誕生したのが、この「小学校の先生になろうプロジェクト」です。

## プロジェクトの実際

本年度から始まったこのプロジェクトは、初等1年生同士がおしゃべりする「定例イベント」と学外とつながる「特別企画」の2種類のイベントがあり、学生ボランティアが中心となって企画、運営を行っています。それでは、イベント当日の様子を紹介します！

## 定例イベント

定例イベントは、「どうして福教大を選んだの?」「大学のテストってどんな感じ?」「体験実習どうだった?」など、その時期に合わせたテーマについて1グループ3~5人程度で楽しくおしゃべりします。初対面の場合がほとんどなので、初めに自己紹介を兼ねて「思い出の給食メニュー」など気楽に話せるテーマでおしゃべりをして、和やかな雰囲気をつくってから本題に入ります。初めはやや堅さや遠慮が見られますが、すぐにたくさんの笑顔や笑い声でいっぱいの会場になります。



### 参加者の感想から

- 明るく話しやすい雰囲気、緊張せず楽しく参加できました。クラスを越えての交流は色々なことを学べたり刺激を受けたりできるので、また参加したいです。
- クラスの人以外との交流はなかなかないため、様々な人と話すことができて楽しかったです！

## 特別企画

特別企画は、「小学校の先生を目指す高校生とおしゃべり」「福教大卒の小学校の先生とおしゃべり」の2つのイベントを開催しました。

「高校生とおしゃべり」は、小学校教員を目指す高校生とオンラインで交流し、受験や大学生活の様子などの質問に対し、昨年の自分の経験や今の学生生活をもとに答えることで、高校生へエールを送りました。

「小学校の先生とおしゃべり」は、初任者の先生方の教室とオンラインでつなぎ、小学校の先生として働くことの魅力から日常生活の様子まで様々な質問をしました。先生方は可愛い(?)後輩のことを思い、優しく本音で答えてくれました。



### 参加者の感想から

- 自分自身が1年前大学受験という未知の壁に立ち向かっていたので、不安な様子にとっても共感できました。私も1年前に先輩からのアドバイスを聞いてみたかったです。
- 福教の先輩方だと安心して話せました。不安だったことが解消されたり、知らなかったリアルな学校現場を知ることができたりして、ますます教師への憧れが強くなりました。

現在、本学の教育総合研究所に研究所員として所属しています。令和2年度までは公立小学校の教頭として勤務し、本学卒業生を含め、初任者の先生方が悪戦苦闘したり子どもたちの成長に涙したりしながら成長していく様子を見てきました。

小学校の先生は教室に入ると基本的に一人で子どもたちの生活指導や学習指導を行い、たとえ1年目であろうと成果が求められます。時には「やっていけるだろうか。」という不安感や孤独感も感じることでしょ。

その様な時に大切なのは「自分は小学校の先生としてやっていくんだ!」という決意と覚悟だと思います。そしてその心の支えとなるのが、自分と同じように日々取り組んでいる大学の時の仲間の存在だと思います。「きっとあいつも…。」と思い浮かべることで、「一人じゃない。」と思えるし、苦難は乗り越えられ、喜びは共有できます。

そんな仲間を少しでも増やすことができるとの思いから「小学校の先生になろうプロジェクト」は生まれました。学生ボランティアの皆さんを中心に、様々な企画、運営を行っています。「小学校の先生になる」という思いを様々な人たちと共有しながら知り合いを増やすことは、大学生活を充実させることはもちろん、「小学校の先生」となってからも大きな財産となります。多くの学生の皆さんのイベントやボランティアへの積極的な参加を期待しています。

こうら ゆうじ  
教育総合研究所 准教授 高良 祐治

お知らせ 「小学校の先生になろうプロジェクト」の情報を発信しています！

公式Twitter [https://twitter.com/naru\\_esteacher](https://twitter.com/naru_esteacher)  
公式Instagram [https://www.instagram.com/naru\\_esteacher/?hl=ja](https://www.instagram.com/naru_esteacher/?hl=ja)



Twitter



Instagram

# 教員紹介 & 学生から見た先生の魅力



特別支援教育研究ユニット  
講師 喜屋武 睦

出身地: 沖縄県  
最終学歴: 東京学芸大学連合学校  
教育学研究科  
取得学位: 博士(教育学)  
本学兼任: 2019年



まだ出会っていない  
自分を知るための学びを

## 専門の研究テーマ

聴覚障害児教育が専門です。大学院では、特に音声の韻律的側面(アクセントやイントネーション)に着目して、聴覚障害児の言語発達について研究を行ってきました。本学に着任してから継続しつつ、最近では言語発達の観点だけでなく聴覚障害児の感情理解や社会性の発達に関する領域への応用を目指しています。また、聴覚障害児を育てる保護者に対する支援の在り方についても関心をもって研究を行っています。

## 大学教員に進むことになったきっかけ

将来に対する漠然とした不安を抱きながら20代前半を過ごしていましたが、学部及び大学院時代の指導教員の研究活動を見て、「研究という立場から子どもや学校の役に立てる道もあるかもしれない」と思ったことがきっかけです。昔から要領は良くなく、失敗や挫折ばかりでしたが、周りに支えられて何とか今の自分があると強く感じています。

## 研究成果の教育への還元

子どもと関わるとき、常に考えや行動の根拠に根拠を置いてほしいと思っています。それは、これまでの研究で得られた科学的根拠は勿論のこと、そこには表れにくい、自身の体験や社会との関わりによる経験から省察を繰り返して導き出されるものも含まれると考えています。大学の授業や研究室で取り組んでいる子どもへの指導では、教育課題に対して、これまでの研



ゼミ風景

究成果を用いて常に“なぜ”を考えることを教員を目指す大学生の皆さんと共有することを心掛けています。そのことが、将来的に子どもや学校への還元にもつながると考えています。

## こだわりの物・考え・モットー

こだわりではありませんが、私はとてもおしゃべりなので、ストレス解消のために人と話す

時間を作ることができるように心がけています。人と話す中で相手の考えに触れ、自分の考えをアウトプットすることで改めて考えを振り返り修正することができるからです。

## 福岡教育大学で学ぶ学生に一言

大学時代は様々なことを学べる貴重な時期です。自分の意志で取り組んだことだけでなく、偶発的に経験する(直面する)事象は今まで知らなかった自分に会える絶好のチャンスだと思います。自分の中にあるものしか人に教えることはできませんので、大学時代にこれでもかというくらい自分を肥やしてください。また、“コスパの良い”大学生活にするために、大学という資源をフルに活用してください。



子どもの指導での教材例



ゼミ生と

## 学生から見た先生の魅力

なかしまみなみ

中島 陽さん(特別支援教育教員養成課程初等教育部知的障害児教育4年)

喜屋武先生は、学生の興味あることや学びたいことについて親身にお話を聞いて下さり、学びの場を提供して下さるとも学生思いで優しい先生です。週一回行われる学習活動では、障害のある子供たちと関わることができる機会を設けてくださっています。指導方法を一緒に考えて活動していくため、とても貴重な経験になります。

また、勉強面だけでなく、生活の中の悩みや不安なども親身に聞いてくださいます。

是非喜屋武先生のルームへお越しください。後悔はしません。



# TeacherAide 福岡

初等教育教員養成課程3年

に ひら なな み  
仁 衡 七 海

TeacherAide福岡は、2022年4月から福教大の公認サークルとして活動を開始しました!

月2回、教育に関する勉強会とテーマを決めた討論会を交互に行っており、教師を目指す学生として、一人ひとりが自分の考えをしっかりと持つことを目指しているサークルです。

今は、4年生2人、3年生5人の少人数で空きコマに活動を行っています!「教師ってどんな仕事なんだろう」や「教育ってなんだろう」など、小さな疑問をみんなで話し合ったり、現役の先生方からお話をさせていただ

たりしています。

最近では、ICTについて勉強して、実際にどんな教育の場面で使っていきたいかについて話し合ったり、現役の先生から教師の働き方についてお話をいただいたりしました。

このような様々な経験から、自分がどんな教師になりたいのかなどを考えるきっかけになるとと思います。

少しでも興味のあるそこのあなた!ご連絡お待ちしております!



## サークル紹介

C I R C L E I N F O R M A T I O N



# バドミントン部

初等教育教員養成課程2年

しま ぞえ こう すけ  
島 添 浩 輔

私たちバドミントン部は、男子8名、女子7名の計15名で楽しく活動しております。

近年では、日本のバドミントン選手が海外で活躍していることから、皆さんの中でも以前と比べて身近なスポーツとなってきているのではないのでしょうか。シャトルを上手くラケットに当てて打つことだけではなく、仲間と共に楽しく活動することもバドミントンの魅力の一つです。

私たちバドミントン部は「とにかく楽しむ」をモットーに活動しています。そのため、経験を問わず誰でも楽しく活動することができるように練習内容を考えています。また、バドミントンを楽しむ以外にも、イベントなどを定

期的に実施しています。

現在はコロナウイルスの影響で、試合やイベントなどの実施が厳しい状況ではありますが、その環境下でも楽しく活動できるようにみんなで工夫をしています。

選手としての入部はもちろんのことマネージャーも大歓迎ですので、少しでもバドミントンに興味があって関わってみたいと思っている方は入部していただけたらと思います。

一緒にバドミントンを楽しみましょう!

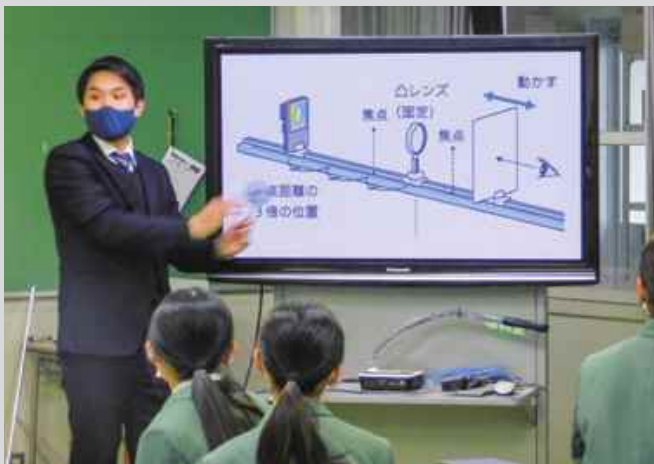




道徳の授業のようす

### 教師としてのやりがい

教師としてのやりがいを最も感じる時は、子どもたちの成長を感じたときです。現在2年生の担任をしています。1年生の頃から担任をさせていただいているので、生徒の成長がよく分かります。例えば、生徒が定期考査に向けて学習に取り組み、目標点を達成したときや部活動で練習に励み、結果を残せたときに私に報告をしてくれます。その時の生徒の笑顔から元気がもらえます。生徒がたくましく育っていく姿を間近で見られることは私の仕事の励みにもなります。



理科の授業のようす

### 学生生活での学び

福岡教育大学での学びは様々ありますが、特に附属中学校で教育実習に取り組めたことが大きな学びだと感じています。教育実習を通して、大学の授業で学んだ理科教育の指導を実践し、自分に足りない力を把握することができました。指導担当の先生からも授業づくりのコツといった学習指導だけでなく、生徒との関わり方など生徒指導についても教えてもらい、充実した時間を過ごすことができました。

### 教職を志す学生へのメッセージ

現在、教員をめぐる状況は大きく変化しており、本当に自分が教員として働いていいのか疑問に感じている人もいると思います。私も学生のときは不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、実際に学校の現場に立つと多くの業務について先輩方が優しく丁寧に指導してくれます。また、たくさん子どもたちと関わることは新たな発見と喜びでいっぱいです。何より子どもの成長とともに、私自身が成長できている実感があり、充実した毎日を過ごせています。いつの日か、これを読んでいる皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています。



部活動指導～夏の中体連～



担任をしている学年が大切にしているキーワード



今年度2学年スローガン



前年度1学年スローガン

糸島市立前原中学校・教諭

い た か ま さ  
教諭 井手 貴政さん

・中等教育教員養成課程理科専攻  
平成30年卒業





# アンケートに答えて福教大オリジナルグッズをGET!

今後のよりよい誌面作りのため、皆様からのご意見・ご感想をお寄せください。

アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で5名様に『福岡教育大学オリジナルグッズ3点セット』をプレゼントします。

※当選者の発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます。

こちらのフォームからご応募ください。



応募締切

令和5年5月31日(水)



抽選で5名様に

福岡教育大学オリジナル  
サインペン&ボールペン&メモ帳

<アンケートにおける個人情報の取扱について>  
ご提供いただいた個人情報は、プレゼントの発送以外には使用致しません。

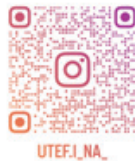
## i-na! Vlog開設しました!

学生広報チームi-na!です。

我々の主な活動は広報誌紙面作成とInstagram運営、福教大オリジナルグッズの考案の3つ。ですが…なんと、今年1月から新たな挑戦、YouTubeで「Vlog」投稿がスタートしております! Vlog初投稿の撮影では、早朝から雨ニモマケズ、風ニモマケズ宮地嶽神社まで歩き進み、今年のi-na!の活躍をお祈りしてきました。できあがったVlogは是非YouTubeでご覧下さい!



i-na! Vlog



i-na! Instagram



## 福岡教育大学基金のご案内

福岡教育大学では、教育研究の更なる発展や充実を図ることを目的として、「福岡教育大学基金」を設けております。

特に「修学支援事業基金」では、経済的理由により修学に困難がある学生が、希望する教育を受けられるように、皆様からいただいたご寄付を、学生のために特化して活用します。

寄附をされる際に、「修学支援事業基金」と事業を特定してください。

広く教育界、産業界、地域の皆様方に、本基金への格別のご理解とご支援を末永く賜りたく、お願いを申し上げます。

福岡教育大学は、明治6年に「学科取調所」として設置され、令和5年に創基150周年を迎えます。創基150周年を節目とし、教育研究の更なる発展や充実を図って参りたいと考えておりますので、更なる基金へのご協力をお願い申し上げます。

公式ホームページ

福岡教育大学基金

検索

インターネット(クレジットカード払い)による寄付金の受付を開始いたしました。

お問い合わせ先

福岡教育大学財務企画課

TEL:0940-35-1218

FAX:0940-35-1701

E-mail:kaihosa@fukuoka-edu.ac.jp

# Campus Letter

キャンパスからの便り

## 後援会

### 「後援会だより」第86号発行のお知らせ

「後援会だより第86号」を12月に発行し皆様に送付しました。今回は就職支援・教員採用試験・教育実習・3年ぶりに対面開催となった学祭などについて掲載しています。

ご意見ご要望などがございましたら、下記事務局までご連絡ください。

福岡教育大学後援会 事務局  
TEL・FAX:0940-33-8070  
E-Mail:kouenkai@eos.ocn.ne.jp



## 学生支援課

### 新しい食堂とショップの愛称が決まりました!

昨年10月にリニューアル・オープンした学内(生協)の食堂とショップの愛称が決まりました。

新しい食堂は、店内の白を基調としたイメージからイタリア語の「光」「輝き」を意味する「ルーチェ」食堂と名付けられました。新しいショップは、教科書にお弁当、自動車学校など様々なことをサポートしてくれる「頼れる場所」の意味を込めて「ピオラ」と名付けられました(ピオラの花言葉「誠実」「信頼」に由来しています)。



ルーチェ食堂



ショップ・ピオラ

## 同窓会城山会

### 城山会第3回役員会・幹事会を開催しました

同窓会城山会では新型コロナによる行動制限が緩和されてきたことを受け、去る12月4日(日)に役員会・幹事会を福岡ガーデンパレスで開催しました。会議ではここ3年間ほど諸活動が延期や中止を余儀なくされ、活動の継承について危惧していることが報告されました。そこで、今後は大学と一層連携しながら同窓会活動を復活し活性化するための工夫について、役員会をはじめ、組織部、事業部、広報部、女性部、青年部の各部において協議しました。



福岡教育大学同窓会 城山会事務局  
TEL・FAX:0940-33-2211  
E-Mail:jouyamakai@able.ocn.ne.jp

## 健康科学センター

### ウォーキングチャレンジに参加しました

全国保健管理研究集会主催の「ウォーキングチャレンジ2022」に参加しました。教職員・学生など合わせて37名が参加しました。参加者には景品(タオル・お茶)を準備し、頑張りを称えあいました。



健康科学センターHP



国語以外は苦手な子が小説家になるかもしれない。  
ノートにらくがきしてばかりの子が画家になるかもしれない。  
チョウやバッタにしか興味のない子が100年後の絶滅種を減らすかもしれない。  
ケガの多いやんちゃな子が多くの命を救う医者になるかもしれない。  
インターネットばかりしている子が平和を創るプログラムを発明するかもしれない。

その可能性を広げる。

教師は、  
世界を変える仕事だ。

あすの教育に、夢を。



国立大学法人  
福岡教育大学  
University of Teacher Education Fukuoka

[www.fukuoka-edu.ac.jp](http://www.fukuoka-edu.ac.jp)

Joyama 通信 vol. **53**

福岡教育大学広報誌第53号 2023年3月10日  
編集発行: 国立大学法人 福岡教育大学 経営政策課

〒811-4192 宗像市赤間文教町1-1  
TEL.0940-35-1205 FAX.0940-35-1259  
e-mail: kouhou@fukuoka-edu.ac.jp  
ホームページ: <https://www.fukuoka-edu.ac.jp/>



福岡教育大学  
イメージキャラクター  
フッキー



大学HP



Twitter



YouTube

リサイクル適性

この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。